

5. 淡路地域における 現状・課題と政策目標

(1) 概要



【いざなぎ神宮】



【淡路ハイウェイオアシス】



【あわじ花さじき】



【道の駅うずしお】



【淡路ファームパーク
イングランドの丘】

人口・面積等

- 人口 13.5万人(2%)
- 面積 596km²(7%)
- GDP 4,638億円(2%)
- 域内市町数 3市

特産品

タマネギ、キャベツ、レタス、ミカン、ビワ、肉用牛、乳用牛、カーネーション、キク、手延べそうめん、瓦、線香等

観光

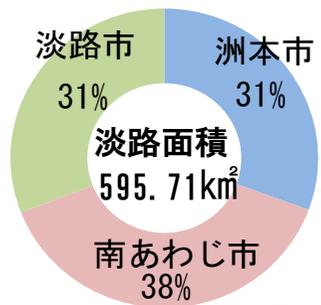
- 観光入込客数 1,372万人
- 主要観光地
 - いざなぎ神宮(淡路市) 189万人
 - 淡路ハイウェイオアシス(淡路市) 169万人
 - あわじ花さじき(淡路市) 77万人
 - 淡路ファームパークイングランドの丘(南あわじ市) 54万人
 - 洲本温泉(洲本市) 45万人

(2) 現状と課題(人口・面積)

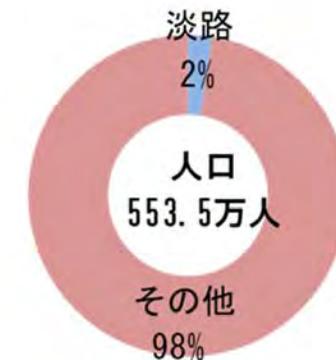
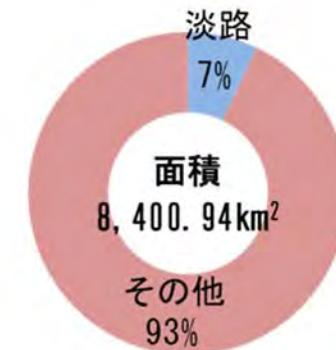
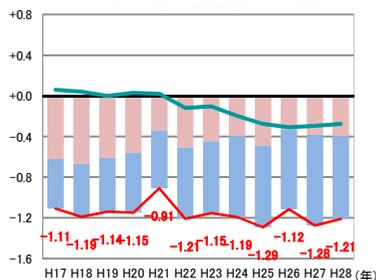
- ◆ 県土の1割弱の面積に県人口の2%が居住
- ◆ 地域内では、面積、人口ともに3市で概ね3等分
- ◆ 地域内人口は、2040年(平成52年)には平成2年の6割弱に減少
- ◆ 島内に大学が少なく、若者流出が人口減少の大きな要因



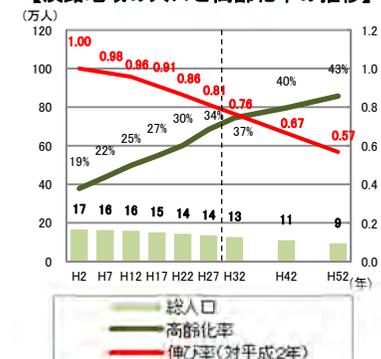
著しい人口減少に備えた
定住人口・交流人口対策



【淡路地域の人口増減率の推移】



【淡路地域の人口と高齢化率の推移】



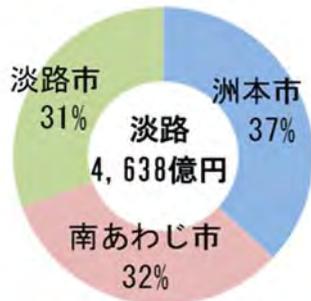
出展: <人口>総務省統計局「国勢調査」(平成27年)
<面積>国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成28年)

(2) 現状と課題(経済・産業)

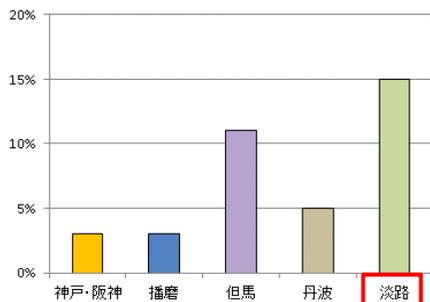
- ◆ GDPは全県の2%程度で、減少傾向で推移
- ◆ 淡路市、南あわじ市で第1次産業の割合が1割と比較的高い
- ◆ GDPに対する観光GDPの比率が高い



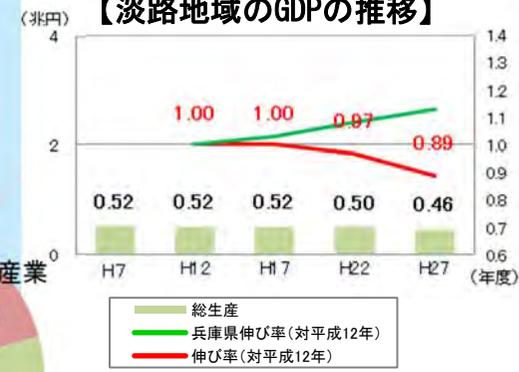
淡路の強みである農畜水産業を活かした産業活性化



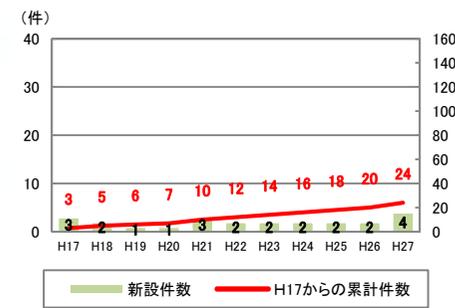
【GDPに対する観光GDPの比率】



【淡路地域のGDPの推移】



【工場立地件数の推移】



出展: <GDP>兵庫県統計課「兵庫県民経済計算」(平成27年度 実質:平成17暦年基準 試算値)
※ただし、市町別産業別内訳は、平成27年度名目別平成17年度基準値

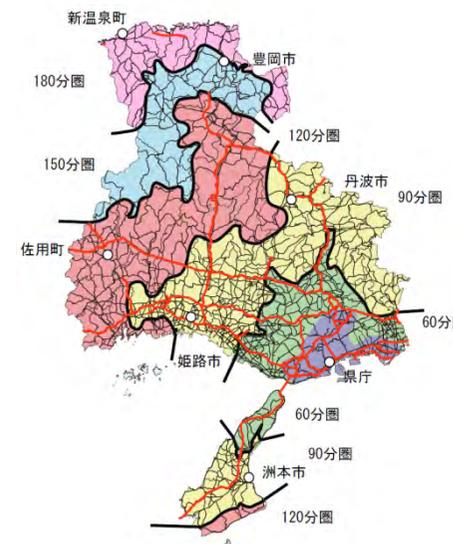
(2) 現状と課題(観光)

- ◆ 「淡路ハイウェイオアシス」「いざなぎ神宮」などの観光地への観光客は、年間1,300万人強で全県の約1割。近年は増加傾向で推移
- ◆ 地域内では淡路市が約7割を占めている
- ◆ 明石海峡大橋開通以降、観光入込客数は増加傾向

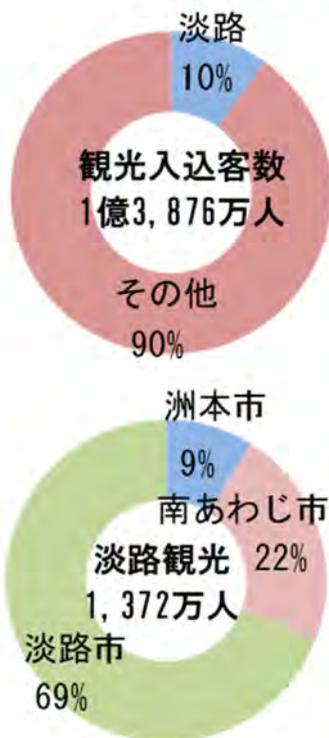
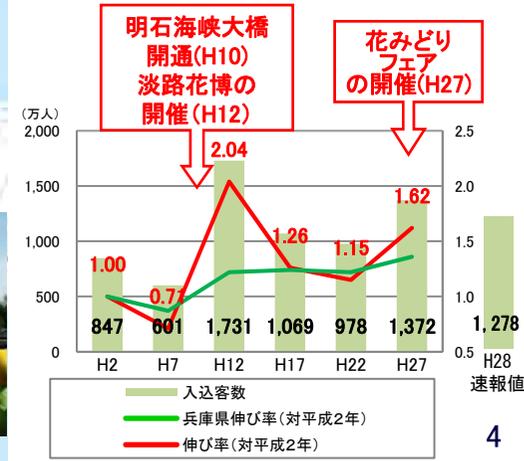


大都市圏からのアクセスの良さ、淡路島ブランドを活かした観光振興による交流人口対策

【県庁からの等時間圏域】



【淡路地域の観光入込客数の推移】



出展: <観光入込客数>兵庫県観光政策課「兵庫県観光客動態調査報告書」(平成27年度)

(2) 現状と課題(災害)

- ◆ 地域内に3箇所の広域防災拠点が点在
- ◆ 神戸淡路鳴門道は、緊急輸送道路となっているが、異常気象時通行規制区間となっている



緊急輸送道路ネットワーク
のリダンダンシー確保

<緊急輸送道路ネットワーク>



凡例

- 広域防災拠点
- パーキングエリア・サービスエリア
- 異常気象時通行規制区間
 - 雨量規制あり
 - その他規制あり
 - 緊急輸送道路

通行規制基準
風速25m/s
連続降雨250mm
計測震度4.5

※異常気象時通行規制区間については、緊急輸送道路と重複する区間のみ表示しています。

(2) 現状と課題(災害:南海トラフ地震による浸水想定区域)

- ◆ 浸水想定区域内に基幹道路は存在しないため、基幹道路が被災するリスクは低い。



想定浸水区域と基幹道路間のアクセスの確保が課題



凡例	
浸水深	
5.0m以上~	5.0m以上~
4.0m以上~5.0m未満	4.0m以上~5.0m未満
3.0m以上~4.0m未満	3.0m以上~4.0m未満
2.0m以上~3.0m未満	2.0m以上~3.0m未満
1.0m以上~2.0m未満	1.0m以上~2.0m未満
0.3m以上~1.0m未満	0.3m以上~1.0m未満
0.3m未満	0.3m未満

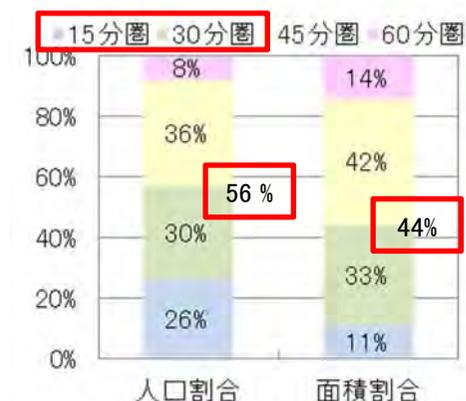
(2) 現状と課題(医療)

- ◆ 地域内には1つの3次救急医療施設が臨海部に立地
- ◆ 到達に30分以上かかるエリアが地域の北部・南部で残る



北部・南部など3次救急医療施設まで時間がかかる地域の速達性の強化

<淡路地域の3次救急医療施設までの等時間圏図>



※平成27年全国道路・街路交通情勢調査の道路網で推計
 距離:実測距離 速度:混雑時平均旅行速度の上り下りで低い速度

(3) 道路をとりまく状況(整備状況)

- ◆ 淡路地域の基幹道路は約40年前から整備が始まり、約20年前に現在の姿が完成している。

S60 (約30年前)

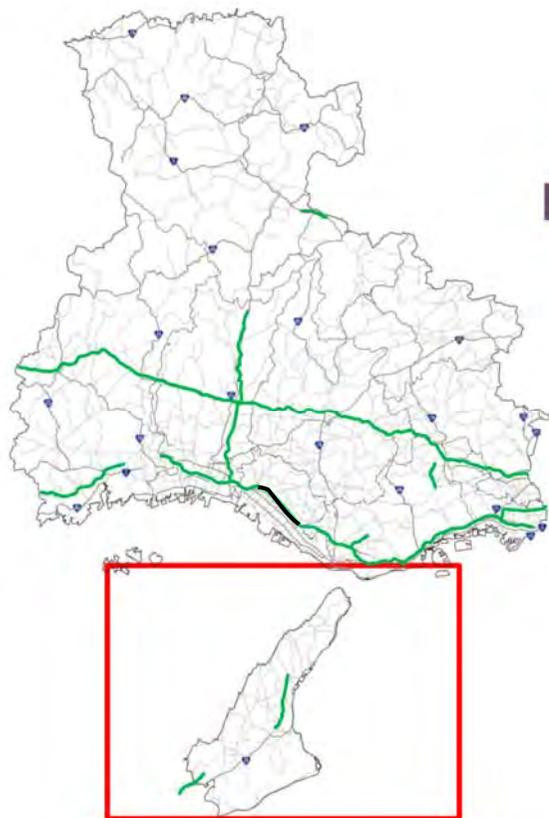
- ・ 播但連絡道路延伸
- ・ 山陽自動車道龍野西I.C以西
- ・ 神戸淡路鳴門自動車道

H17 (約10年前)

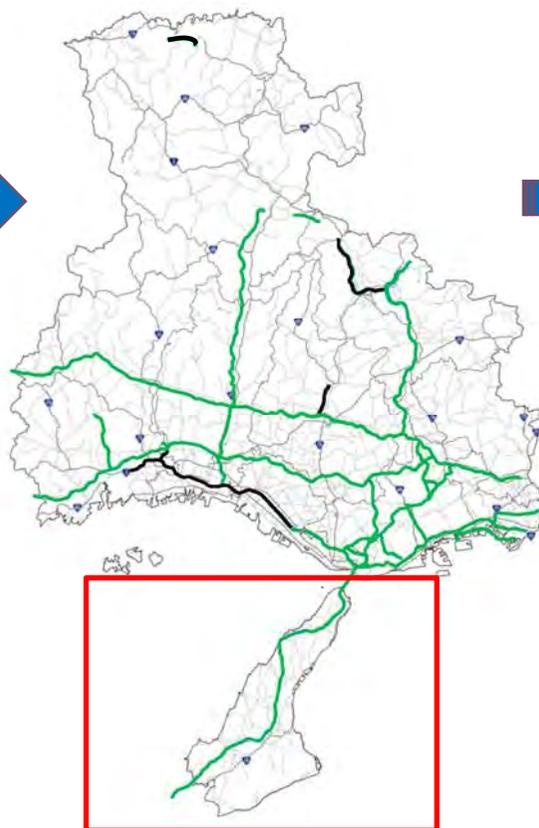
- ・ 山陽道、本州四国連絡道路
阪神高速北神戸線、
播但連絡道路全線供用

H29 (現在)

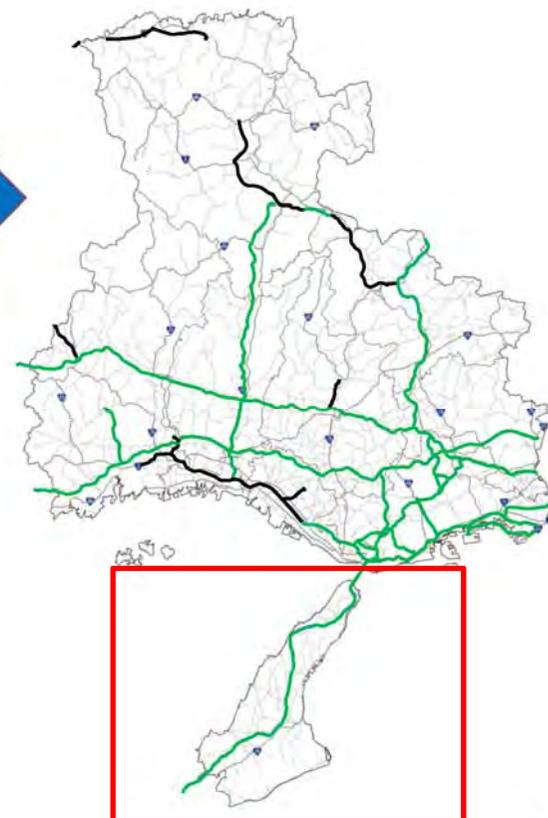
- ・ 北近畿豊岡道、山陰近畿自
動車道等の県北部のネット
ワーク整備が伸展



20年

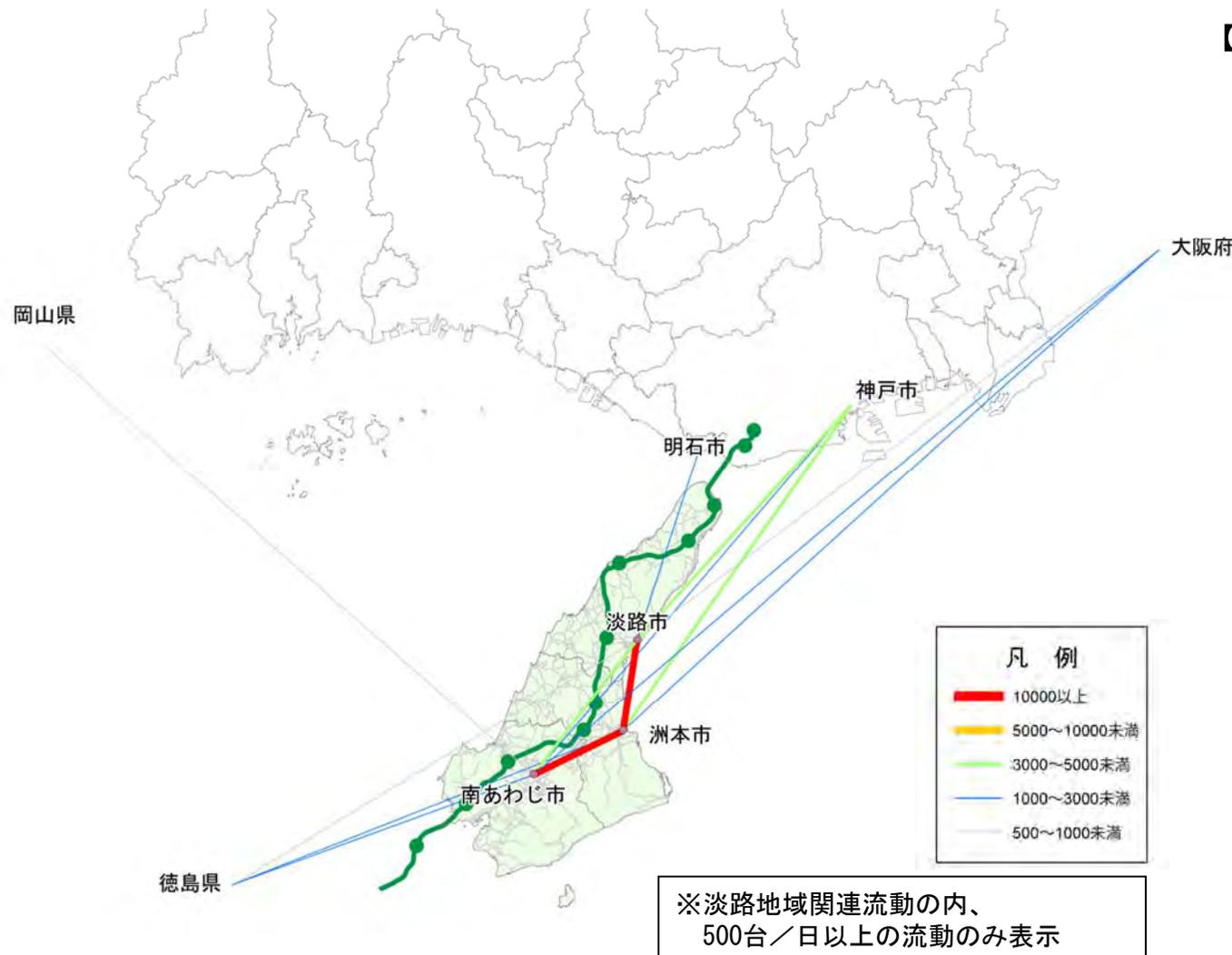


10年

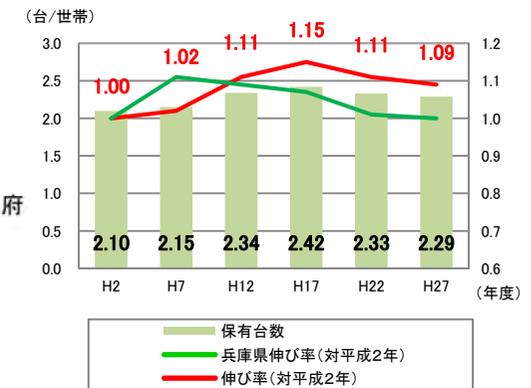


(3) 道路をとりまく状況(OD流動)

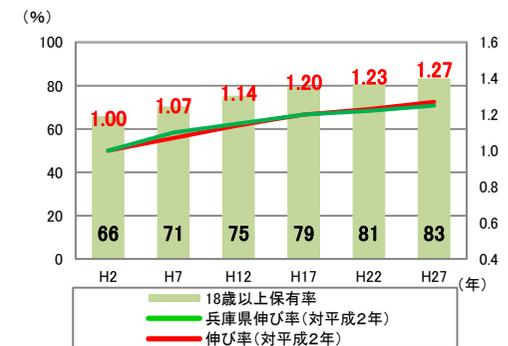
- ◆ 地域の隣接都市間で大きな流動が発生
- ◆ 洲本市、淡路市と神戸市の流動、南あわじ市、洲本市と徳島県との流動が発生
- ◆ 自動車保有台数が高く、交通における自動車への依存が高い



【淡路地域の自動車保有台数の推移】



【淡路地域の免許保有率の推移】



(3) 道路をとりまく状況(交通量と大型車混入率)

- ◆ 神戸淡路鳴門道、国道28号で1万台/日を超える交通があり、南北幹線道路の日交通量が多い
- ◆ 基幹道路である神戸淡路鳴門自動車道で3割を超える大型車が利用

<24時間交通量>



<大型車混入率>



(3) 道路をとりまく状況(事故率)

- ◆ 一般道路に比べて基幹道路の事故率は低い

事故率
単位：件/億台km

県平均
国道：87件/億台km
高速：15件/億台km



(4) 淡路地域の課題まとめ

項 目		課 題
地域の課題	人口減少対策	著しい人口減少に備えた 定住人口・交流人口対策
	産業活性化	淡路の強みである 農畜水産業を活かした産業活性化
	観光振興	大都市圏からのアクセスの良さ、淡路島ブランドを活かした 観光振興による交流人口対策
	災害への備え	緊急輸送道路ネットワークのリダンダンシー確保 想定浸水区域と基幹道路間のアクセスの確保が課題
	地域医療の充実	北部・南部地域など、3次救急医療施設への到達に時間がかかる地域への 速達性の強化
道路の課題	交通需要・渋滞	旅行速度が低い区間への対応

(5) 淡路地域の将来計画

項目	地域の将来像
人口減少対策	○島内出身者の地元企業への就職、UJIターン等により、島内企業の人材確保の支援や都市住民の転入を促進(県地域創生戦略淡路版)
産業活性化	○農畜水産業、食関連産業の振興により、雇用を創出(県地域創生戦略淡路版)
観光振興	○観光地としての評価をより高め、交流人口を増加(県地域創生戦略淡路版)
災害への備え	○自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり—過去の教訓を生かし、ハードとソフトが一体となった防災・減災の地域づくり(淡路地域ビジョン)
地域医療の充実	○災害時における医療連携体制の充実・強化(県地域創生戦略淡路版)

(6) 淡路地域の政策目標(案)

地域の課題	道路の課題	将来像	意見聴取
-------	-------	-----	------

項目	政策目標 (案)	基幹道路の 目指すべき姿 (案)
人口減少 対策	○UJターンなどを促進するため、神戸・阪神地域などの都市部との更なるアクセス強化や利便性の向上	⇒SIC等の設置による基幹道路の機能強化
産業活性化	○「ブランド化」が進む農畜水産物の販路拡大や付加価値向上のための物流機能の強化	
観光振興	○一層の観光振興に向け、都市部との更なるアクセス強化や利便性の向上	
災害への 備え	○南海トラフ地震等の大規模自然災害に備えた着実な対策の実施	
地域医療 の充実	○3次救急医療施設「淡路医療センター」への速達性の確保	

(7) 淡路地域の基幹道路の目指すべき姿(案)

OSIC等の設置による基幹道路の機能強化

- ⚓ 港湾
- ✈ 空港
- 🏥 3次救急医療
- 広域防災拠点
- 主要観光地

